

令和 6 年度 大阪桐蔭中学校・高等学校 学校評価

1. めざす学校像

・建学の精神「偉大なる平凡人たれ」と、桐蔭の教育方針「鼎立なりて碩量を育む」のもと、徳知体教育の充実を図ります。 ・生徒一人一人が希望する進路、目標、自己実現を達成できる学校となります。 ・高校 3 ャ年それぞれのコースに応じた教育カリキュラム、また、設置するⅠ類・Ⅱ類・Ⅲ類のコース教育の特性を一層伸長させます。 ・大阪桐蔭として日本を代表する中等教育機関としての地位を確立します。
--

2. 中期的目標

1. 建学の精神・教育方針に基づく教育の実践 (1) Ⅰ類・Ⅱ類の難関国公立大学進学実績をさらに伸ばすために、常にカリキュラム、授業内容を見直し、教学面の充実を図る。「学習指導要領」の改訂に伴って再編したカリキュラムを検証する。 (2) 配慮を要する生徒への支援体制の強化に取り組む。 (3) 教員の指導力の向上に取り組む。 (4) Ⅲ類クラブの全国レベルでの活躍をバックアップする体制を整える。また、その活躍を継続させるためにも、指導者の後継者育成を進める。 (5) 生徒のマナーの向上と挨拶の励行を促す。 (6) 学校行事の実施時期、内容の検証をし、充実を図る。 2. 大阪産業大学および附属高校との連携 (1) 大阪産業大学とのスポーツクラブの交流を図る。 (2) 「特別推薦入試制度」を充実させ、大阪産業大学との進学に関わる連携を強化する。 (3) 大阪産業大学の入学試験の検証に関わる。 (4) 定期戦の実施も視野に入れ、附属高校とのスポーツクラブの交流を図る。 3. 地域との連携 (1) 地元(大東市・四条畷市)から応援される学校を目指し、地元地域のイベントへの生徒の積極的な参加を促す。 (2) 組織のレベルで地元地域との連携を図り、地元地域に貢献する一方で、地元地域からの積極的な教育支援を受けることのできる開かれた学校を目指す。 (3) 災害等の非常時に地域への支援・協力を実行できる体制を構築する。 4. キャンパス整備 (1) 東館の撤退と本館集約に向けて「キャンパス整備計画」を策定する。 (2) スポーツクラブの練習場を整備し、校外グラウンドを確保する。 (3) 校内グラウンドの拡張、寮の新設について検討を進める。 (4) 老朽化に伴う建物の傷みの点検と修繕を行う。 (5) ICT 教育を進めるための環境を整備する。 (6) 法人のサポートのもと、全教員への PC の貸与を検討する。 (7) 電気機械・器具の最新化により、エコスクール化を進める。 5. 卒業生および保護者との連携の強化 (1) 桐友会、桐友会 O B 会、同窓会の 3 つの外郭団体との連携を強める。また、学校が団体間の連携を強めるための役割を果たす。 (2) 各会からの支援について、より有効なものにする。 (3) 必要に応じて、各会の規約を見直す。 (4) 保護者とのコミュニケーションのツールとして、HP やミマモルメを活用する。 6. 大阪桐蔭ブランド力の強化 (1) 学則定員、募集定員について、常に見直しを図る。 (2) より効果的な広報活動の方法を探る。 (3) 広報・渉外部の充実を図る。 (4) Ⅰ類・Ⅱ類の進学実績（特に国公立難関大学・国公立医学系大学への合格）を向上させ、在籍生徒・保護者の満足度を高めるとともに、受験生へのアピールを強める。 (5) 優秀な教員の確保に努める。 (6) Ⅲ類クラブの全国レベルでの活躍をバックアップし、全国優勝を目指す。 そのことで、在籍生徒・保護者の満足度を高めるとともに、知名度を高める。 7. コンプライアンスへの取り組み (1) 各種規定を整備・周知し、コンプライアンスの徹底を図る。 (2) 「学校法人大阪産業大学情報管理基本規程」に基づき、法人のサポートのもと情報管理体制を構築する。 (3) 人権教育、ハラスメント教育、体罰、いじめ等に関する研修を実施する。
--

3. 学校関係者評価委員会からの意見

評価アンケートの結果と分析（令和7年4月実施 主な項目を抜粋）	学校関係者評価委員会からの意見
■ 授業に関して ○ 授業の進度について R6 適正である（中 78% 高 82%）、遅くしてほしい（中 17% 高 11%） R5 適正である（中 80% 高 82%）、遅くしてほしい（中 14% 高 10%） R4 適正である（中 81% 高 80%）、遅くしてほしい（中 14% 高 11%） R3 適正である（中 78% 高 80%）、遅くしてほしい（中 16% 高 10%） R2 適正である（中 76% 高 76%）、遅くしてほしい（中 16% 高 13%） ○ 授業の内容について R6 非常にわかりやすい・わかりやすい（中 89% 高 89%） R5 非常にわかりやすい・わかりやすい（中 90% 高 88%） R4 非常にわかりやすい・わかりやすい（中 90% 高 87%） R3 非常にわかりやすい・わかりやすい（中 90% 高 88%） R2 非常にわかりやすい・わかりやすい（中 90% 高 85%） ○ 授業に対して満足しているか R6 非常に満足・満足（中 92% 高 91%） R5 非常に満足・満足（中 92% 高 90%） R4 非常に満足・満足（中 92% 高 88%） R3 非常に満足・満足（中 91% 高 90%） R2 非常に満足・満足（中 90% 高 87%） ○ 宿題の量について R6 適正である（中 73% 高 79%）、多すぎる（中 17% 高 9%） R5 適正である（中 75% 高 80%）、多すぎる（中 13% 高 10%） R4 適正である（中 75% 高 76%）、多すぎる（中 12% 高 12%） R3 適正である（中 72% 高 76%）、多すぎる（中 15% 高 9%） R2 適正である（中 68% 高 74%）、多すぎる（中 15% 高 10%） 【授業に関する評価はいずれの項目もポイントが上昇もしくは昨年と同程度となっている。90%近くの生徒は授業内容が分かり易く、非常に満足または満足と答えており、質の高い教育ができているものと評価できる。また、授業の進度、宿題の量についても適正であるとの評価が年々高くなっており、授業での工夫が見て取れる。その一方で、一部の科目で授業が早すぎる、宿題の量が多すぎると感じている生徒の割合が高くなっていることにも十分留意すべきであり、授業内容の検討や個別指導などの対応も引き続き必要である。】 ■ 教員に関して ○ 教員は熱心に授業を行っているか R6 肯定的評価（中 95% 高 95%） R5 肯定的評価（中 95% 高 95%） R4 肯定的評価（中 96% 高 95%） R3 肯定的評価（中 95% 高 96%） R2 肯定的評価（中 95% 高 94%） ○ 教員は、質問をしやすいですか（聞いてくれる） R6 肯定的評価（中 91% 高 88%） R5 肯定的評価（中 90% 高 86%） R4 肯定的評価（中 94% 高 95%） R3 肯定的評価（中 95% 高 94%） R2 肯定的評価（中 95% 高 91%） ○ 教員は、あなたの悩みを聞いてくれますか R6 肯定的評価（中 90% 高 86%） R5 肯定的評価（中 86% 高 84%） R4 肯定的評価（中 90% 高 90%） R3 肯定的評価（中 89% 高 88%） R2 肯定的評価（中 87% 高 86%） ○ 教員は、あなたに問題が起こったときにしっかり対応してくれますか	■授業に関して ・本年度の評価において、授業の進度・内容理解・満足度のいずれの項目においても、高い評価が継続的に示されていることが分かります。特に「授業が分かりやすい」「授業に対して満足している」という回答が中高ともに 90%前後と非常に高く、日々のご指導に対して深く感謝申し上げます。 一方で、「授業進度」については、中学・高校ともに『速い』との回答が一定割合あることが確認できます。大阪桐蔭の教育方針である「高度な学習内容への挑戦」や部活動との両立を踏まえれば、一定のテンポは必要であると理解していますが、生徒の個々の理解・定着をより丁寧を支えることで、さらなる学習意欲の向上につながると考えます。 特に、授業内での振り返り時間の確保や、理解が不安な生徒に対する補習・質問対応の継続的な充実は、保護者からも評価と安心につながります。 今後とも、生徒一人ひとりが「分かった」「できる」という実感を積み重ねられる授業運営を期待しております。引き続き、教職員の皆様のご尽力に深く感謝申し上げます。 ・数年前から徐々に「遅くしてほしい」という意見を減らしていますが、具体的数値を目標にして、どうすべきか個々の先生方に授業の仕方、方針を明確にしてもらう。 ・宿題が単純に多いと思っているのか、これは必要ないと思っている宿題が入っているのか多いと思っているのか？ ・「一部の科目で授業が早すぎる、宿題の量が多すぎると感じている生徒の割合が高くなっていることにも十分留意すべきであり、授業内容の検討や個別指導などの対応も引き続き必要である。」の検討結果や対応策を次年度にご報告するようにしてください。 ■ 教員に関して ・教員に対する評価では、「熱心に授業を行っている」「質問しやすい」「悩みを聞いてくれる」といった多数の項目で、中高ともに 90%前後の非常に高い肯定的評価が示されていることに、まず深く敬意を表したいと思います。日々の授業準備や生活指導をはじめ、生徒一人ひとりに寄り添う教職員の皆様のご尽力が、確かな信頼として表れているものと受け止めております。 一方で、「問題が起こったときの対応」については、中学校においてやや評価が下がる傾向が見られました。中学生は心身ともに大きく変化する時期であり、悩みや不安が表に出づらいことも多いため、生徒自身の言葉だけでなく、表情や態度の変化に気づき、早期に寄り添っていただけるコミュニケーションの丁寧さが、今後さらに求められると感じております。 大阪桐蔭では、学力向上や部活動での成長だけでなく、「人としての成長」を大切にしている学校です。その中核となるのは、やはり教員と生徒の信頼関係であり、「先生は自分のことをわかってくれている」そう感じられる場があることは、生徒にとって非常に大きな支えとなります。 今後も、生徒がどのような状況のときでも安心して相談できる学校であり続けるよう、引き続きご指導・ご支援をお願い申し上げます。

R6 肯定的評価（中 94% 高 88%）
R5 肯定的評価（中 97% 高 87%）
R4 肯定的評価（中 95% 高 95%）
R3 肯定的評価（中 96% 高 96%）
R2 肯定的評価（中 96% 高 95%）

【授業に関する評価と同様に教員に対する評価も高くはなっているが、中学校においては生徒の悩み・問題への対応の評価ポイントが低下しており、あらためて中高全体で教員の生徒に寄り添う姿勢が求められる。】

■ 学習への取り組みに関して

○ あなたは、授業をしっかりと聞いていますか

R6 肯定的評価（中 96% 高 95%）、否定的評価（中 4% 高 5%）
R5 肯定的評価（中 93% 高 94%）、否定的評価（中 7% 高 6%）
R4 肯定的評価（中 92% 高 93%）、否定的評価（中 8% 高 7%）
R3 肯定的評価（中 93% 高 94%）、否定的評価（中 7% 高 6%）
R2 肯定的評価（中 93% 高 93%）、否定的評価（中 7% 高 7%）

○ あなたは、授業の予習・復習をきちんとしていますか

R6 肯定的評価（中 46% 高 52%）、否定的評価（中 54% 高 48%）
R5 肯定的評価（中 50% 高 55%）、否定的評価（中 50% 高 45%）
R4 肯定的評価（中 48% 高 58%）、否定的評価（中 52% 高 42%）
R3 肯定的評価（中 48% 高 58%）、否定的評価（中 52% 高 42%）
R2 肯定的評価（中 48% 高 46%）、否定的評価（中 52% 高 54%）

○ あなたは、宿題や課題にきちんと取り組んでいますか

R6 肯定的評価（中 75% 高 85%）、否定的評価（中 25% 高 15%）
R5 肯定的評価（中 79% 高 87%）、否定的評価（中 21% 高 13%）
R4 肯定的評価（中 82% 高 86%）、否定的評価（中 18% 高 14%）
R3 肯定的評価（中 84% 高 86%）、否定的評価（中 16% 高 14%）
R2 肯定的評価（中 81% 高 84%）、否定的評価（中 19% 高 16%）

○ あなたは、早朝テスト・終礼テストに真剣に取り組んでいますか

R6 肯定的評価（中 79% 高 84%）
R5 肯定的評価（中 91% 高 85%）
R4 肯定的評価（中 90% 高 87%）
R3 肯定的評価（中 86% 高 88%）
R2 肯定的評価（中 86% 高 82%）

○ あなたは、模試を真剣に受験していますか

R6 肯定的評価（中 87% 高 89%）
R5 肯定的評価（中 91% 高 91%）
R4 肯定的評価（中 91% 高 92%）
R3 肯定的評価（中 90% 高 91%）
R2 肯定的評価（中 90% 高 87%）

【授業をしっかりと聞くことについては年々ポイントが高くなってきているが、その他の項目でポイントが低下することとなった。特に中学校では早期テスト・終礼テスト取り組みについて、肯定的評価が大幅に低下していること始め、全体の評価が低下することとなった。

授業時間以外での学習意欲の向上を図るため、原因の究明と早めの学習の習慣づけの対策が必要である。】

■ 学校行事に関して

○ あなたは、学校行事に真剣に取り組みましたか

R6 肯定的評価（中 96% 高 95%）
R5 肯定的評価（中 95% 高 95%）
R4 肯定的評価（中 93% 高 90%）
R3 肯定的評価（中 92% 高 88%）
R2 肯定的評価（中 89% 高 89%）

す。教職員の皆様の真摯なご対応に、心より感謝申し上げます。

・令和5年から高校生の肯定的意見が10%ほど下がっている。教員と生徒の間での雰囲気が変わっているのか？

・問題が起こったときの対応に教員同士の壁やしがらみがあるのでは？

■ 学習への取り組みに関して

・本年度の調査結果において、「授業にしっかりと取り組んでいる」「授業内容を理解しようとしている」と回答した生徒が中高ともに高い割合を示しており、学習に対する姿勢が十分に育まれていることを、大変心強く感じております。これは、先生方が日々の授業の質向上に真摯に取り組んでくださっている成果であり、心より感謝申し上げます。

一方で、「家庭学習」を中心とした授業外の取り組みには、生徒間で意識や習慣の差が見られます。特に中学生の宿題や課題の取り組みについては、宿題が「理解を深める学び」ではなく、「量をこなすこと」が目的になってしまっているかもしれません。

家庭学習を「学習の定着」につなげていくためには、

・宿題の“目的”を生徒に丁寧に示すこと

・自分なりの進め方を身につけるための学習指導

・生徒一人ひとりの進度や理解状況に応じた声かけ・フォロー

がより重要になると考えます。

また、家庭での学習習慣は、学校だけではなく保護者の関わり方や環境づくりも影響する領域であるため、学校と家庭が同じ方向を向いて支えていくことが大切であると感じております。

・予習復習の件、予習復習の大切さを知っていながら、否定的意見なのか、全否定しているのか深掘りすれば改善の余地がありそう。

・令和5年度と同じ自己評価のため、「原因の究明と早めの学習の習慣づけの対策」の取り組みを次年度報告するようにしてください。

■ 学校行事に関して

・令和6年度は、年間を通じて予定されていた学校行事を十分に実施することができ、生徒の満足度も高い結果となっていることを大変嬉しく感じております。特に、行事に対して「真剣に取り組んだ」との回答が中高ともに非常に高い数値を示しており、生徒が主体的に関わる姿勢が育まれていることを評価いたします。これは、先生方による丁寧な準備と、行事の意義をしっかりと伝える取り

○ あなたは、学校行事には満足していますか R6 肯定的評価（中 92% 高 80%） R5 肯定的評価（中 88% 高 74%） R4 肯定的評価（中 75% 高 56%） R3 肯定的評価（中 62% 高 42%） R2 肯定的評価（中 70% 高 62%）	組みの賜物であると存じます。 大阪桐蔭の学校行事は、単なるイベントではなく、仲間との協働、挑戦、感動を通して「人としての成長」を育む大切な場です。今後も、生徒が「自分がこの行事をつくった」と実感できる参加型の工夫や、生徒主体の取り組みを継続していただけると幸いです。 教職員の皆様のご尽力に深く敬意を表するとともに、引き続き、生徒にとって心に残る学校行事が実施されますことを願っております。
【令和 6 年度は概ねすべての行事を予定どおり実施することができ、満足度が上がった。また、学校行事に真剣に取り組む生徒の割合も増えた。 何に対しても一生懸命頑張るのが本校生徒の特徴であり、充実した学校生活が送れるように、できる限り行事を実施するよう努めるとともに、より充実した内容に見直していくことが重要である。】	・今年には大幅に肯定的意見が多くなってきている。 文化祭の屋台などで、身のある課外授業に興味を持っている傾向。また、行事の企画案が生徒にウケているのでは。
■ 学校生活に関して ○ あなたは、学校生活を楽しく感じますか R6 肯定的評価（中 91% 高 86%） R5 肯定的評価（中 88% 高 83%） R4 肯定的評価（中 87% 高 81%） R3 肯定的評価（中 86% 高 78%） R2 肯定的評価（中 87% 高 80%）	■ 学校生活に関して ・本年度の結果より、生徒の多くが学校生活を「楽しい」と感じていることが示されており、安心と喜びをもって受け止めております。行事や日常の学び、部活動など、学校生活のさまざまな場面において、生徒が仲間と関わり合いながら成長できる環境を整えてくださっている先生方に、心より感謝申し上げます。 一方で、高校生は大学受験を控え、精神的な負担が大きくなる時期であるので、生徒がストレスを抱え込みすぎることなく、自分の努力が認められていると実感できる場、不安や悩みを気軽に相談できる関係性、“頑張り方” を教えてもらえる環境づくりをしていたいただければ願っております。
【コロナ禍が解消され、令和 6 年度は満足度が高くなった。高校は大学受験を控えて緊張感の高まる時期であり、中学校に比べ評価が低くなるのは致しかたない面があるが、受験勉強のストレスなどを十分考慮した上での対応やケアが必要である。】	・コロナの制限された学校生活から解放され、早く、友達作り、企画作りなどの社会のリーダーとなりうる人材育成を求む。
■ その他 ○ あなたは、校則をしっかり守っていますか R6 肯定的評価（中 96% 高 97%） R5 肯定的評価（中 95% 高 97%） R4 肯定的評価（中 96% 高 97%） R3 肯定的評価（中 95% 高 97%） R2 肯定的評価（中 97% 高 97%）	■ その他 ・校則の遵守については、全学年において非常に高い評価が示されており、学校生活の中で基本的な姿勢がしっかりと身についていることを大変心強く感じております。生徒一人ひとりが周囲への配慮を忘れず、落ち着いた環境で学べていることは、本校の教育方針が着実に浸透している証であり、日々ご指導いただいている先生方に深く感謝申し上げます。
○ あなたは、挨拶をしっかりしていますか R6 毎回挨拶をする（中 52% 高 61%） たまにする（中 45% 高 36%）、ほとんど・全くしない（中 3% 高 3%） R5 毎回挨拶をする（中 51% 高 59%） たまにする（中 44% 高 38%）、ほとんど・全くしない（中 4% 高 3%） R4 毎回挨拶をする（中 52% 高 55%） たまにする（中 43% 高 42%）、ほとんど・全くしない（中 5% 高 3%） R3 毎回挨拶をする（中 50% 高 55%） たまにする（中 44% 高 41%）、ほとんど・全くしない（中 6% 高 4%） R2 毎回挨拶をする（中 50% 高 60%） たまにする（中 44% 高 37%）、ほとんど・全くしない（中 6% 高 3%）	一方で、「挨拶」については、以前に比べて改善が見られるものの、生徒によって差があります。挨拶は、人と人との関係を築くうえでの基本であり、社会に出てからも大切にされる力です。 挨拶が単に「指導されて行うもの」ではなく、生徒が自らの意思で自然に行えるものとして根づくことを期待しております。そのためにも、挨拶という形だけが習慣となるのではなく、「なぜ挨拶が大切なのか」その意味や背景を丁寧に伝えていただくことで、より実感を伴った姿勢の育成につながるものと考えます。 今後も、学校・家庭が一体となり、豊かな人間性を育む教育を共に支えてまいりたいと思います。
【校則に関してはよく順守されており、学校の規律がよく保たれていると評価できる。挨拶に関しては中学校、高校とも毎回挨拶をする生徒の割合が増えてきており、生徒による挨拶運動や指導の成果が出て来ているようである。しかし、毎回挨拶する生徒が半数程度に留まっており、引き続きホームルームや集会等において根気強く指導を行っていかねばならない。また教職員から生徒に率先して声をかけ、挨拶を習慣づけることも必要である。】	・学校に訪問した際に「この人誰？」のまえに挨拶する習慣をつけましょう。社会に出て役立ちます。

	■ 総括 ・本年度の学校評価におきましては、授業・学校生活・行事・指導体制のいずれにおいても、先生方の日々のご尽力が生徒の成長につながっていることを、改めて実感いたしました。生徒たちが前向きに学び、仲間と共に充実した学校生活を送れていることに、深く感謝申し上げます。 今後、家庭と学校が同じ方向を向き、生徒一人ひとりの成長を支えていけるよう協力してまいります。引き続き、どうぞよろしくお願い申し上げます。 ・教員と生徒の信頼感などを大切に、来年に向けていただきたい
本年度の取組内容及び自己評価に関する意見	
・本年度の取組において、授業の充実、学校行事の活性化、生活指導の徹底など、学校全体で一貫した教育的取り組みが進められていることに感謝申し上げます。特に、生徒が主体的に学び、行事や部活動に真剣に取り組む姿が見られたことは、先生方の丁寧な指導と支援の積み重ねによるものと感じております。学校と家庭が協力し、生徒一人ひとりが安心して学び、伸びていける環境づくりに、引き続き力を尽くしてまいりたいと存じます。 ・毎年、自己点検・自己評価を行っているのであれば、単年度で完結するのではなく、前年度の課題として認識した部分、指摘を受けた部分にどのように対応したか、対応中なのか、課題に対する取り組みも報告すべきであり、その部分が物足りなく感じます。（PDCAが機能しているように記述すべきだと思います。本年度の取組内容に含まれているのであるのであれば、わかるように記述すべきだと思います。） 地域との連携で、危機管理に関して独自に検討されているように記述されているが、法人管理課との連携が重要であると考えますので調整をお願いします。	

4. 本年度の取組内容及び自己評価

中 期 的 目 標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価 ※【 】内は達成状況及び今後の課題
1 建 学 の 精 神 ・ 教 育 方 針 に 基 づ く 教 育 の 実 践	(1)Ⅰ類・Ⅱ類の難関 国公立大学進学実績 をさらに伸ばすため に、常にカリキュラム、 授業内容を見直し、教 学面の充実を図る。 「学習指導要領」の改 訂に伴って再編したカ リキュラムを検証する。	① 「学習指導要領」の改訂に伴って再編 をした高校のカリキュラムについて、教員 の認識を深め、効率的な授業を展開する。	新学習指導要領への対応状況	①教務部・教科・学年で会議を開き、再編 をしたカリキュラムの徹底と、新カリキュラ ムに沿った効率的な授業について検討し、実 践しました。 【新学習指導要領の観点別評価に関し て、教科担当者の理解を深め更なる効率 的な授業の促進が必要である。】
		②一貫生については早い段階で進路指導部 と学年が連携し、6年をかけて成績を向上 させる取り組みを行う。	学習意欲・学力の伸張度	②一貫生については早い段階で進路指導 部と学年が連携し成績を向上させる取り組 みを行いました。また、高入生エクシードク ラスの成功例を生かし、新たに中学校にプ ロシードコースを令和 7 年度から設置する こととし、更なる進学実績の向上を目指しま す。 【更なる進学実績の向上を目指し、高い 目標を持った生徒が増えることによる他 のクラスへの波及効果が期待する。】
		③高入生については、エクシードクラスを 牽引役として高い意識を持たせて、それを 維持する指導を行う。また、エクシードク ラス設置後初めてとなる進学実績を点検 し、授業・指導方法の改善につなげる。コ ース化も含めてエクシードクラスの役割に ついての確認も行う。	エクシードクラスの進学実績	③エクシードクラスで培った授業・指導方法 を活かして、令和7年度に高校にエクシード コースを設置し新たなコースとして入学生を 募集することにより、更なる進学実績の向上 を目指します。
		④学習合宿・受験対策合宿などの実施時 期・回数・内容について検討を行い、より 効果的で充実した内容にする。	学習合宿等の実施状況	④新たにエクシードクラスの学習合宿を行う など、各学校行事は予定どおり実施できて います。次年度の行事については今年度

		⑤各種模擬試験・各種検定について、その都度結果の分析を行い、課題点を見つけて対策を考えるなど、効果的に活用する。	模擬試験の生徒へのフィードバック状況	の行事内容を精査し、行事内容と業者を選定しました。
	(2) 配慮を要する生徒への支援体制の強化に取り組む。	①不登校・いじめ・発達障害・家庭環境などの問題を抱えた生徒が、安心して登校し授業が受けられるよう保健室・教育相談・人権教育推進部・生徒指導部・学年・担任・保護者が協力し支援できる体制の強化に取り組む。 ②いじめ問題が発生した場合は「いじめ対策委員会」によって対応するなど、トラブルに対しては個人ではなく、組織的に対応する。	生徒が抱える問題への早期対応	⑤各種模擬テスト・各種検定・志望校調査を効果的に実施しています。模試の結果を学年・教科ごとに分析し、課題点を見つけ、次の模試に向けて対策を考えるなど、生徒へフィードバックを行いました。 【学年・教科担当と進路指導部との連携を図り効果的な実施ができた。今後も模試の結果を生徒へフィードバックすることが重要である。】
	(3) 教員の指導力の向上に取り組む。	①教員向け外部研究会・研修会(教科指導・進学指導・生徒指導・ICT教育など)へ積極的に参加し、教員としての資質を高める。 ② 授業力の向上に向けて研究授業の機会を増やす。 ③授業アンケート・自己評価アンケートの結果および学校関係者評価委員会の評価をフィードバックし、低評価な項目があれば改善を図る。	研修への参加状況 研究授業の実施 授業評価アンケートの実施 学校関係者評価委員会の開催	①生徒が抱える様々な問題について担任等の個人が対応するのではなく、学年・分掌で情報を共有するとともに、生徒には教育相談(カウンセリング)の利用を勧めています。 ②いじめ問題などのトラブルが発生した場合は個々に対応するのではなく、「いじめ対策委員会」で対応するなど、組織的に対応しています。 【個々の教員が問題を抱え込むことなく、教員同士が相談しやすい組織で解決する更なる環境づくりを目指す。】
	(4) Ⅲ類クラブの全国レベルでの活躍をバックアップする体制を整える。また、その活躍を継続させるためにも、指導者の後継者育成を進める。	① ラグビー部グラウンドの人工芝敷設、夜間照明増設により練習環境を改善する。また、野球部グラウンドの拡張について検討する。 ② Ⅲ類クラブ指導者の後継者育成を進めるため、若手指導者の採用、外部からの指導者招聘を検討する。	練習設備の整備進捗状況 クラブ指導者の要員充足状況	①学内で研修会や講演会を実施するとともに、各教員が外部研究会や研修会に積極的に参加し、教員としての資質の向上を図りました。 ②各教員が自発的に他の教員の授業見学をし、授業力向上に努めています。また、入試説明会の際などに保護者に授業を公開し、授業力の向上に役立てました。 ③授業アンケート及び自己評価アンケートを実施し、その結果及び学校関係者評価委員会(桐友会、同窓会、評議員)の評価をフィードバックし、改善を図りました。 ①ラグビー部グラウンドについては人工芝敷設、夜間照明増設工事を実施しており、練習環境を改善することができました。また、野球部グラウンドの拡張については、国定公園内の新たな開発となることから打開策を含め検討しています。 【一部の生駒グラウンドの整備が進み出したことの意義は大きい。今後はクラブの要望を聞きながら、寮を含む施設の改善を図る。】 ②将来の指導体制を見据え、若手指導者の採用および配置変えを進めています。また、本校卒業生のみならず外部からも招聘をするなどして、クラブ強化に努めています。

	(5) 生徒のマナーの向上と挨拶の励行を促す。	①朝礼・登下校指導を実施し、マナーの向上や挨拶の励行を促す。朝礼やHRでは、外部の方の本校生徒に対する評価(アンケートやメールや電話による具体的なもの)を伝え、訴える。 ②生徒会・運動部を牽引役として挨拶の励行を促すとともに、教員からも積極的に声掛けをする。中学生による挨拶運動を、回数を増やす、学校全体に広げるなどして、自主的に挨拶をする機運を高める。 ③新入生オリエンテーションにおいて、校則の遵守を徹底するとともにマナーの向上や挨拶の励行を促す。特にSNSについては、具体例を挙げながら注意を促す。 ④校則の点検を行う。	生徒のマナー向上 生徒の挨拶状況 生徒のマナー向上 校則の点検	【クラブ指導者の後継者育成のために若手指導者の採用は不可欠であり、今後も長期的視点に立って採用を検討する。】 ①ホームルームや集会においては引き続きマナーの向上や挨拶の励行を呼び掛け、本校生徒に対する好意的な意見をいただいた場合は、集会などで生徒に伝えていきます。また通学マナー向上のため、生徒指導部が通学路に立ってマナー指導を行いました。 【新入生オリエンテーションはコースごとに実施でき、校長・生徒指導部・教務部・学年より懲戒内規・教務内規について説明を行い、校則・マナーの遵守についても話げできた。】 ②中学では当番を決め、登校時に生徒が入口付近に立って挨拶をする取り組みを行っています。また、運動部でも挨拶の励行を促し、学校全体に自主的に挨拶をする機運を高めています。 【挨拶運動の取り組みは大変有意義であり、引き続き教員からの声掛けも行いながら、挨拶の励行を進めるとともに、生徒のマナー向上を目指す。】 ③入学式翌日に新入生オリエンテーションを実施し、校長・生徒指導部・教務部・学年から懲戒内規・教務内規について話をし、校則・マナーの遵守についても話をしました。特に SNS については新入生対象に講演会を実施し、注意を促しました。 【毎年新入生に対して講演会を実施するとともに、日頃より指導を行うことで生徒の意識向上を図る。】 ④これまで学内で生じた事案を精査し、生徒指導部を中心に点検を行っています。 【学内で生じた事案と社会変動を踏まえた校則の改正を目指す。】
	(6) 学校行事の実施時期、内容の検証をし、充実を図る。	学校行事は、情操教育を進め帰属意識を高めることにおいても非常に効果的である。各合宿・研修の実施時期や行先・内容等を随時見直し、より満足度の高い行事にする。また業者選定において、内容を第一優先として選定できるよう検討する。	生徒の満足度向上 学校行事の実施状況	学習合宿や修学旅行等の各学校行事を予定どおりに実施しました。高校エクシードクラスは、独自に学習合宿を行い、中学3年年生の海外語学研修先については、これまでのカナダに替えてオーストラリアで実施しました。また、次年度の研修等についてこれまで実施した行事を精査し、研修先の変更なども含め業者選定を行いました。 【行事を予定どおり実施できたことは、学校生活を充実したものにする上で非常に意義が大きく、今後も安全に十分注意を払いながら、全行事を充実した内容で実施する。】

2 大 阪 産 業 大 学 お よ び 附 属 高 校 と の 連 携	(1) 大阪産業大学とのスポーツクラブの交流を図る。	(1) 大阪産業大学とのスポーツクラブの合同練習や施設の共同利用を通じて情報交換・指導力の向上・技術力の向上を目指す。	クラブ間の合同練習等の実施	(1) 女子バスケットボール部および男子サッカー部が、大阪産業大学のクラブとの間で練習見学、練習試合、情報交換などを行っています。また、本校主催で開催した小学生対象の体験授業に大学環境理工学部の実験室が参加し、同日に本校アリーナで本校と大学が後援するドローン操縦協議会が開催され（昨年度は大学で開催）、本校生徒も参加しました。 【クラブ間の連携が強まりスポーツ推薦で大阪産業大学へ進学実績があり、大学のクラブ強化に貢献できている。今後は一部のクラブに留まらず交流を拡げたい。】
	(2) 「特別推薦入試制度」を充実させ、大阪産業大学との進学に関わる連携を強化する。	(2) 「特別推薦入試制度」について、大学の入試センターとの協議を進め、進学者（特にⅢ類生）の確保に努める。	特別推薦入試制度による進学実績	(2) 大学の入試センターと連携を取りながら「特別推薦入試制度」の活用について検討を行い、Ⅲ類生の進学に結びつけることができた。 【Ⅲ類生が特別推薦入試制度により大阪産業大学へ進学する実績があり、今後この制度を活用して大学との連携を深めたい。】
	(3) 大阪産業大学の入学試験の検証に関わる。	(3) 高大連携事業の一環として、大阪産業大学入学試験の解答・コメントを行う。大学入試センターと協議をし、より確実なものにする。	入学試験の検証の実施	(3) 大学の「公募推薦入試」「一般入試」において入学試験の解答作成を本校教員が行い、入学試験の点検に協力してきたが、今年度より大学の点検制度が変更になり実施しないことになった。 【あらためて大学側から協力の要請があった場合は、できる限り協力したい。】
	(4) 定期戦の実施も視野に入れ、附属高校とのスポーツクラブの交流を図る。	(4) 附属高校とスポーツクラブとの合同練習や施設の共同利用を通じて、情報交換・指導力の向上・技術力の向上を目指す。	クラブ間の合同練習等の実施	(4) 附属高校との間で、野球部、サッカー部などクラブ交流の機会を持つことができました。 【一部のクラブではあるが練習試合も行うことができた。今後は定期戦の開催なども検討したい。】
3 地 域 と の 連 携	(1) 地元(大東市・四条畷市)から応援される学校を目指し、地元地域のイベントへの生徒の積極的な参加を促す。	(1) 生徒会・クラブを中心として、地元地域のイベントに積極的に参加し、つながりを強める。(文化部の各種イベントへの参加、生徒会による清掃活動、その他大東市役所や四条畷警察からの協力依頼案件など)	地元地域のイベントへの参加	(1) 理科研究部、ロケット研究部、生物部が地域の小学生を対象に理科実験教室を開催しました。また、地域自治会が主催するイベントに協賛しました。
	(2) 組織のレベルで地元地域との連携を図り、地元地域に貢献する一方で、地元地域からの積極的な教育支援を受けることのできる開かれた学校を目指す。	(2) 大東市、四条畷警察署などとの連携を深め、地元自治体の活動・取り組みなどに協力する。	地元自治体への協力	(2) 職員研修として四条畷・大東消防組合の協力による緊急救命講習（AED講習）や四条畷警察署の協力による不審者対応講習会を実施しました。また、生徒向けに四条畷警察署の協力による自転車安全運転講習を開催しました。 【地域との連携により有効な取り組みができた。】
	(3) 災害等の非常時に地域への支援・協力を実行できる体制を構築	(3) 災害時避難所に指定されていることを踏まえ、公立小中学校で避難者を収容しきれなくなった場合を想定して、緊急時の受け入れ	検討の有無と結果	(3) 地元大東市からの具体的な依頼は無く、年度内に市役所との調整はできなかったが、発電機の購入などを計画して

	する。	体制について検討する。		います。 【どのような場合に、どの程度の期間避難者を受け入れるのかなど、基本的なことを大東市などと調整し、今後の受け入れ体制を検討する必要がある。】
4 キ ャ ン パ ス 整 備	(1) 東館の撤退と本館集約に向けて「キャンパス整備計画」を策定する。	(1)キャンパスの本館集約を見据えて、購入した本館校地および購入を検討中の隣接地の活用方法を検討する。シャトルバス・スクールバスのさらなる有効利用を検討する。	整備計画の策定状況	(1) キャンパスの本館集約については、具体的な検討に至っておらず、購入した土地はプロジェクトワークにより、環境教育のための野菜栽培に利用しました。 【学園全体の整備計画の中で検討しないといけないため、法人と検討を重ねながら整備を進めたい。】
	(2) スポーツクラブの練習場を整備し、校外グラウンドを確保する。	(2)クラブの練習場を含めた施設・設備の改修・増設を進める。ラグビー部グラウンドは土砂の流出などもあり状態がよくないため、人工芝の敷設、夜間照明の整備等により改善を図る。野球部グラウンドは規定の広さに満たないため、拡張に向けて検討を進める。また、Ⅲ類クラブバス、吹奏楽部楽器運搬用トラックを買い替える。	必要な改修工事の実施	(2) ラグビー部グラウンドについては人工芝敷設、夜間照明増設工事を実施しており、練習環境を改善することができました。また、野球部グラウンドの拡張については、国定公園内の新たな開発となることから打開策を含め検討しています。吹奏楽部楽器運搬用トラックについては、財務部と購入予算の調整を図り、購入しました。 【一部のグラウンドではあるが整備に着手でき、今後の計画を検討したい。】
	(3) 校内グラウンドの拡張、寮の新設について検討を進める。	(3)購入した本館グラウンド隣接地および購入を検討中の隣接地の活用方法について、寮の建設を含めて法人と検討を進める。	グラウンド活用方法及び寮新設の検討実施	(3) 新たな寮を建設するため隣接する土地の購入と新たな寮の管理方法等を、財務部とともに検討をしています。 【新たな校地取得とその活用について、長期的視点に立って検討する必要がある。】
	(4) 老朽化に伴う建物の傷みの点検と修繕を行う。	(4)本館・東館の外壁、東館の空調設備・換気設備、東館キュービクルの更新工事を行い、経年劣化した施設の全面的改修を行う。また、生駒研修センターなど、古くなった施設・設備の点検を実施し、優先順位を決めた上で修繕・改修・更新を行う。	修繕・改修工事の実施	(4) 本館・東館の外壁工事及び東館の空調設備更新工事については、経費削減を目的に財務部と仕様と工事日程を調整して令和7年度に実施することとなりました。東館の換気設備及びキュービクルの更新工事については予定どおり工事を行いました。また、経年劣化や自然災害等で生じた設備の不具合については、随時修繕・改修等の対応をしています。 【繰り越した案件も予算取りをし、計画的に修繕・改修を行う予定である。】
	(5) ICT 教育を進めるための環境を整備する。	(5)次期教務システムの選定に向け、法人と連携しながら、現システムの問題点等の点検、教員ニーズの把握などの調査・検討を進める。教育インフラを整備するため、必要なハード・ソフトの導入を検討する。	情報ネットワーク機器の整備	(5) 教務部と法人管理課の担当者を中心に調査や検討を進めていますが、現システム以外で本校が求めているシステムを現在も探っている状態です。今後も法人と連携をとりながら整備を進めます。
	(6) 法人のサポートのもと、全教員への PC の貸与を検討する。	(6)情報セキュリティ強化を進めた上で、全教員にインターネットへの接続を認め、メールアドレスも付与する。	セキュリティの管理体制の整備	(6) ネットワークの整備は完了し、全職員のインターネット接続が可能となり、全教職員にメールアドレスを付与しました。

	(7) 電気機械・器具の最新化により、エコスクール化を進める。	(7) 電気機械・器具の最新化により、エコスクール化を進める。 ① 東館(普通教室以外)の空調設備の更新工事を行う。 ② アリーナ、シンフォニックの LED 化工事を行う。これによりすべての校舎・施設がLED化され、節電ができる。 ③東館PC教室のシンクライアントシステムの更新を行う。	各機器の更新	(7) ①財務部との調整の結果、東館の新たな室外機設置の関係で屋上防水工事と連動して令和7年度に工事を行うことになりました。 ②節電を目的にアリーナ及びシンフォニックホールの照明のLED化工事を実施しました。 ③東館PC教室のクライアントシステムは、仕様を総務部管理課と調整を行い、予定どおり更新を行いました。 【繰り越した案件も予算取りをし、計画的に工事を行います。】
5 卒業生および保護者との連携の強化	(1) 桐友会、桐友会OB会、同窓会の3つの外郭団体との連携を強める。また、学校が団体間の連携を強めるための役割を果たす。 (2) 各会からの支援について、より有効なものにする。 (3) 必要に応じて、各会の規約を見直す。 (4)保護者とのコミュニケーションのツールとして、HP やミマモルメを活用する。	(1) 各会の役員会や総会に教職員・管理職が出席し、情報の共有、意見交換を通じて連携を強める。また、学校を仲立ちとして、桐友会、桐友会OB会、同窓会の横の連携を強める。 (2) 学内において支援内容を精査した上で、各会役員と連携し支援を依頼する。Ⅲ類クラブの全国大会出場時の支援、応援団派遣の支援についても引き続き協力をお願いする。 (3) 各会の役員と協議しながら、必要に応じて規約を見直す。 (4) HP、ミマモルメ、MS Teams による情報発信を活用し、情報がリアルタイムで保護者に伝わるようにする。また、必要に応じてアンケート機能を活用して保護者の要望を収集し、学校運営に反映させる。	役員会や総会への教職員の出席 役員との情報交換の実施 支援の有効活用 規約の見直し検討 情報発信状況	(1) 桐友会、桐友会OB会、同窓会の3つの外郭団体との連携を強めるために、役員会や総会などに管理職が毎回出席し、情報共有・意見交換などを行っています。 【充実した意見交換ができ、本校の要望を事業に取り入れていただくことができた。】 (2) 支援内容は校内会議で精査し、各会に支援を依頼しています。また、硬式野球部の甲子園出場の際にも桐友会から応援グッズ購入等の支援をしていただきました。 【学校予算ではすぐに対応できない事項について支援をいただき、学校運営が円滑にできた。今後も保護者目線での支援をお願いしていきたい。】 (3) 管理職が役員会に出席し、必要に応じて規約の見直しなどの検討を行っています。 【学校の規程とのバランスを考慮しながら、規約などの見直しを検討することができた。】 (4) HP、ミマモルメによる情報発信のほかTeamsを活用し、保護者との連絡ツールとして使っています。 【欠席連絡やクラスの連絡などにTeamsを利用するようになり、円滑に連絡ができるようになった。さらに積極的に利用することにより、教員、保護者双方にとって利便性を高めることができた。】

大阪桐蔭ブランド力の強化	(1)学則定員、募集定員について、常に見直しを図る。	(1) 入学試験の出願状況および教員数・教室数を考慮しながら、中高の学則定員（中学校 600 名 高等学校 2,160 名）やⅢ類クラブの募集人数の見直しを行う。類制、エスシードクラスについて、今後の在り方について検討を行う。	募集人数の見直しの実施	(1) 高校エクシードクラスで培った授業・指導方法を活かして、令和 7 年度に高校 1 類にはエクシードコースを設置し、近年志望者数が少なくなったⅡ類を廃止、中学校には新たなプロシードコースを設置し入学生を募集しました。 また、国や大阪府の 1 クラス 40 人の方針や、本校教室数を考慮し、平成 7 年度中学校の募集定員は、1 クラス 35 名として 6 クラス 210 名、高校の外部募集定員は 1 クラス 40 名として 10 クラス 400 名としました。
	(2)より効果的な広報活動の方法を探る。	(2) 新たに始めた中学校訪問の効果を検証し、訪問地域・時期・回数などの検討を行い、より効果的な広報活動を行う。入試説明会の開催についての広報を強化する。	説明会の実施および参加状況 ホームページの見直し実施	(2) 昨年より中学校訪問を実施しており、本校の基準や新しいコースなどの情報がこれまで以上に浸透し始めています。広報活動の効果としては、説明会の参加人数が増えていることから少しずつであるが結果が現れています。ただし、この活動は職員の負担が大きく今後検討が必要となることが想定されます。
	(3)広報・渉外部の充実を図る。	(3) 入試広報・企画部と教員の広報担当との連携を深めて、より積極的な広報を展開する。	広報体制の見直し実施	(3) 連携をとって活動しているがとくに教員への負担が大きくなってきています。生徒への指導を行いながら、休日を返上し対応しているため、今後組織的に見直す必要があります。 【入試広報に専念できるような組織改編を検討したい。】
	(4)Ⅰ類・Ⅱ類の進学実績(特に国公立難関大学・国公立医学系大学への合格)を向上させ、在籍生徒・保護者の満足度を高めるとともに、受験生へのアピールを強める。	(4) Ⅰ類・Ⅱ類の進学実績、Ⅲ類のクラブ実績の向上に努め、本校のブランドイメージを強化する。	難関大学の合格者数 各クラブの全国大会等への出場	(4) Ⅰ類の高入生で編成したエクシードクラスの 1 期生の内、19 名が京都大学を始めとする国公立大学に合格するなど進学実績の向上がありました。また、Ⅲ類のクラブではラグビー部がサニックスワールドユース大会で日本チームとして初めての優勝、ゴルフ部女子が全国高等学校ゴルフ選手権大会で団体優勝と個人優勝、硬式野球部が全国高等学校野球選手権大会に出場を果たし、本校のブランドイメージの強化に繋がっています。
	(5)優秀な教員の確保に努める。	(5) 教員募集を早期に開始するとともに、新任者の待遇の見直しを検討する。	要員の充足状況	(5) 早期に募集を行い、4 月から採用試験を始めて継続して選考を進めました。 【今後は早期の募集と内定後の辞退も見込んだ上で、内定者数を検討している。 】
	(6)Ⅲ類クラブの全国レベルでの活躍をバックアップし、全国優勝を目指す。そのことで、在籍生徒・保護者の満足度を高めるとともに、知名度を高める。	(6) Ⅲ類各クラブが練習に集中できるように、グラウンドや寮などの練習環境や生活環境を改善する。	支援の有効活用	(6) ラグビー部グラウンドについては人工芝敷設、夜間照明増設工事を実施しており、練習環境を改善することができました。また、野球部グラウンドの拡張については、国定公園内の新たな開発となることから打開策を含め検討しています。吹奏楽部楽器運搬用トラックについては、財務部と購入予算の調整を図り、納

				車されました。また、新たな生徒寮の建設と管理体制について、財務部とともに検討を進めています。
7 コ ン プ ラ イ ア ン ス へ の 取 り 組 み	(1)各種規定を整備・周知し、コンプライアンスの徹底を図る。 (2)「学校法人大阪産業大学情報管理基本規定」に基づき、法人のサポートのもと情報管理体制を構築する。 (3)人権教育、ハラスメント教育、体罰、いじめ等に関する研修を実施する。	(1) 本校関連規程の改正・制定があった場合は速やかに教職員に周知し、必要があれば詳細な説明を行う。また、本校と直接関係のない学園他機関の規程についても教職員が閲覧できるようにする。 (2) ネットワークの再構築、情報セキュリティの強化に伴い、情報システム管理のルールを策定し、教職員へ周知徹底する。また、業者任せではなく本校教職員による情報管理体制を構築する。 (3) 安心安全な教育環境を確保するために、人権教育推進部、生徒指導部、保健部などの主導で各種講演や研修会を実施し、教職員の啓蒙、校内体制の強化を図る。	規程の整備・見直し 情報管理の強化 道徳教育や講演会の実施	(1) 本校関連規程の改正や制定があった場合は、職員会議等で周知するとともに説明を行っています。また、他機関の規程の改正については理規達の掲示とともに、詳細については規程管理システムで確認するようにしています。 (2) ICT担当教育職員と事務部を中心に、法人本部管理課とともに情報管理体制を構築しています。 (3) 各部の主導により、消防署や警察署の協力で緊急救命講習や不審者対応講習等を実施し、校内の安全環境の強化を図っています。